

AA

日本ニューズレター No.104

171-0014東京都豊島区池袋4-17-10 土屋ビル4F

第9回AA日本全国評議会開催！

2004年2月6・7・8日に川崎グランドホテルにて第9回全国評議会「グループと評議会・全体サービスの棚卸し Part 2」が開催されました。昨年までの深川B&Gホテルから新しい会場に変わりましたが、評議会の熱気は以前にも増したものとなったように感じました。



大きな期待と少しの不安？に胸を膨らませた新しい評議員10名と1年間の活動経験に大きな成果と地域の付託を預かった後期評議員10名が全国から集まってきました。そして常任理事会も今年から新しい役割を持った4人の理事が新年度の活動を始めています。

6日朝、受付を終えた評議員たちがオリエンテーションに入り、会場のセッティングも準備万端となりました。お手伝いくださる事務局、書記局、受け付けや会場整理などのボランティアたちもだんだんと評議会モードへ切り替わってゆきました。

午後12時30分、8日の午後3時までの評議会開催が宣言され、プログラムに則って進行が始まりました。

常任理事会から事業報告が行われ、決算の説明がありました。各委員会ごとに活発な議論が展開され、時間の経過は瞬く間に、夕食の時間となってしまいました。夕食後の懇親会で新しい評議員やボランティアの紹介が楽しく行われ、緊張感による顔つきのこわばりも解け一体感の中に次の熱い討議が予感されました。

評議員から内容については詳細が報告されると思いますので議事内容に関しては簡単に紹介することにいたします。

先ず大きな出来事をお伝えしたいと思います。昨年からお知らせしてきましたが、NPO(特定非営利活動法人)の登記が完了したことです。これからは社会的な責任を担うこと

で、一般社会からの信頼や信用をいただくことができると思います。そして懸案の評議会憲章も2年間の試行という条件のもと常任理事会準則(同条件)と共に採択されました。

広報委員会ではメンバーシップサーヴェイの実施や病院・施設との合同開催のフォーラムを中四国地域で行うことが決まりました。インターネット関連では各地域のセントラルオフィスへのリンクが採択されました。病院・施設委員会では前年までのアンケートの有効活用が検討され、全国にメッセージを届けることが確認されました。出版委員会では「回復への道パート4」の発行、新規パンフレットの翻訳、次年度発行の準備(ドクター・ボブとオールドタイマーたちなど)が話し合われました。これらの活動を支えるお金の問題は深刻です。毎度のことですが収入が不足、財務委員会は苦勞をしてやっと今年度の予算計画を提出し採択されました。こうして第9回全国評議会は無事終了いたしました...が、この瞬間から第10回全国評議会「30周年を向かって.....愛とサービスの輪」が始まったこととなります。

積み残した議題も、検討課題もたくさんあります。そして、今年採択された勧告を常任理事会は執行してゆく責任があります。全てはAAの大きな目的の達成のために、それぞれの出来ることを精一杯行ってゆく責任があります。

誰かが、どこかで助けを求めたら。

必ずそこにAAの(愛の)手が、あるようにしたい。

それは私の責任だ。

30周年実行委員会より第10回目の実行委員会報告書が届いています。もう1年半後にはたくさんの中の人と共に日本のAAの成長をお祝いできることになりました。

ポスターも出来上がったようで、もうすぐみなさんの所に届くはずですよ。私たちにできることをもう一度確認しましょう。今日一日の生き方の中に、希望という贈り物をもっていると思います。先のことはわからないのは皆同じ、でも飲まないでいれば必ず実現できることは経験が証明しています。この力を信じましょう！日本の30周年の前にアメリカ・カナダでは70周年を祝います。4面にトロント(開催地：カナダ)の紹介を載せました。日本ニューズレターでも次号からは福岡大会に向けてカウントダウンを始めたいと思います。福岡に日本のAAメンバーが一人でも多く集まることが、未だ苦しんでいるアルコールクヘ(アルコールに問題を持っている全ての人へ)の大きなメッセージとなることはご理解願います。

新常任理事をさせて頂くにあたって
企画・評議会担当 B類常任理事 森田

今年からAAゼネラルサービス常任理事をさせていただくことになりました森田です。アルコールクです。東京の高円寺にありますAA杉並グループのメンバーです。紙上ですので姿かたちを見せられません、38歳、男性、髪は短めです。昨年夏に行われた評議会構成メンバーによる選挙手続き(郵送投票)により選出され、これから4年間の任期を務めることとなります。よろしくお祈いします。

担当は企画と評議会です。グループとは縁遠いと感じられる方もいらっしゃるかもしれませんが、どちらもAAのサービス機構や一体性と切っても切れない重要な分野です。来年の9月に九州福岡で開催が予定されていますAA日本30周年記念集会和、毎年各地域持ち回りで行われている全国サービスフォーラムなどの常任理事会主催イベント企画を管理・運営するのが企画担当理事の役割です。また、来年で10回目を迎える全国評議会は、全国7地域のグループの良心を集め、AA全体の基本方針やサービス執行を決議していく会議であり、その議事・運営に関することに責任を果たしていくのが評議会議事担当理事の役割です。イベント企画を実際に運営していくのは各地域の実行委員会となりますが、今年・来年のイベント企画についてはすでに現地の仲間の献身的な努力により、準備が進められているところです。感謝いたします。

さて、ぼく自身のことを少し書かせていただきたいと思ひます。ひどい飲酒のために生きていくことがどうにもなくなり、AAにつながる入り口になったのは、JSOで紹介してもらった南多摩地区の国分寺で開かれていたヤングミーティングでした。20代でAAにやってくるメンバーは自分も含め、多くが他のアディクションの問題を持っていたり、他人とまともに目を合わせることもできないうらいに深刻な対人恐怖を抱えていたりします。しかしAAのミーティングに通うようになってしばらくすると仲間の話が聞こえてきて、他の多くの仲間が似たような不安や苦しみを乗り越えてきたということがわかるようになり、ほっとした気持ちになりました。ただ、わかったからといってすぐにそういった恐怖や不安、苦しみの堂々巡りが解決したわけではなく、トンネルの出口を探すかのように、時間をかけて繰り返しミーティングとプログラムを使うしかありませんでした。同じような経験をしてきた同世代の仲間と分かち合いができるヤングミーティングの存在は、自分にとっては入り口の段階では特に、なくてはならないものだったと思ひます。

プログラムのおかげで、まずはアルコールから離れることができ、形だけは社会生活にも復帰することができました。メッセージを運ぶことも続けられるようになり、酒が止まって4~5年でグループの役割もほぼ一通りこなすことができるようになりました。なんだかそれだけでも、AAのことは何もかもわかったような気になるんですね。自分もそうでした。グループにどっぷりとつかり、たいていのことが思い通りに進んでいくように感じ、そしてほどほどに収入も安定してきて物質的に不自由が無くなってきたのもこの頃でした。ミーティングの出席頻度も今思うと一番少なかった時期です。自分は毎日ミーティングに行くことのできる仲間と違ってフルタイムで仕事をしているんだし、週二回のグループのミーティングと月二回のメッセージに行くのを続けるだけで必要十分、それ以上AAのことはできないしやるつもりもない、とよく仲間に話していたと思ひます。しかし、それだ

けでは何か...こう、欠落しているというか、物足りなさ、それが何なのかよくわかりませんでした。

自分が本当に解決しなくてはいけない問題、まだ解決されていない問題、それは自分の場合、12のステップと12の伝統の中、ステップ4の章にもある「他者との真の協力関係を築き上げる能力が自分にまったくないという重大な事実」です。それがもたらす他の人々への人間的な恐れは、自分が築こうとしている人生の土台を(しらふになっても)くまなく食い荒らす白アリでした。自分だけが正しいと信じていること、他の人と仲良くしようという気がないこと、話し合っ調整・解決していこうという努力をしないこと。これらは頭で問題に気がついて、取り除くことはできませんでした。これらの人間的問題を解決するのに非常に効果的な方法として、仲間の中で一緒にサービスをやっていくことが思い当たります。そう思うようになったのは、あくまで最近のことであり、いろいろとやらせていただいでいく中で感じるようになったことです。なんだかよくわからないけど、はじめられたのがよかったのです。

サービス活動をはじめのきっかけを与えてくれたのが、2000年の25周年記念集会の実行委員会であったと思ひます。いつも生き生きとサービス活動をしている仲間が実行委員長を務めることになったと聞いて、純粋に手伝いたいと思ひ、またヤングの企画の関係もあって参加したのです。ぼくはいつも実行委員会と名のつくものは、最後までやりとあすることができず、嫌になったあたりで言い訳を付けては途中で放り出していました。ところがこの25周年は、不思議と最後まで投げ出さなかったのです。反省会が終わったときに「あと4年サービスをやるといいよ」と先行く仲間に言われたことが今も思ひ出されます。

ちょうど時期を同じくして、これまた別の先行く仲間の誘いがあって、地区委員会にもう一度初心に戻り出て行くようになりました。地区のチェアパーソンと地域委員会の役割(これもラウンドアップという「イベント企画」でした)をやらせてもらい、さらに評議員の2年間もやり通せたのです。ですから、サービスに対し目を見開くことができてからまだ4~5年しか経っていないというのが正直なところ。しかし25周年以来、ぼくがサービス活動を通して仲間からもらった力は、それ以前にはまったく想像もつかなかったような、力強く「よく効く」ものでした。

そして今、また30周年などのイベント企画にかかわれる巡り合わせになっていることに、ハイヤーパワーの配慮を感じます。GSM時代からサービス活動をされている方からすれば、ぼくなど鼻たれ小僧にしか見えないのかもしれませんが、経験のない部分はどう逆立ちしてもわかりません。そのあたりが若干不安ですが、わからない部分は教えていただきながら、その分一生懸命やっていきたいと思います。全国の仲間と関係者の皆様にご指導をいただきながら、ひとつひとつ努力していきますので、よろしくお祈いいたします。

B類常任理事に就任して
広報担当・東日本圏地方常任理事 原田

「この版の原稿を入稿した1976年3月の時点でのアルコールクス・アノニマスのメンバーの数は控えめに見積もっても全世界で100万人以上いると推定される。90カ国以上の国々でおよそ28,000のグループが活動をつけている。(1998年の時点で、およそ150カ国で97,

000以上のグループが活動を続けている。)

アメリカとカナダのグループの調査によれば、AAメンバーの数が増えただけでなく、その層も大きく広がりがつあることを示している。全メンバーのなかで女性が占める割合は4分の1以上となっているが、新しく加わったメンバーだけをみると、ほぼ3分の1にのぼる。調査対象となったAAメンバーの7パーセントが30歳以下であるが、その中でも、10代のメンバーの数が増えている。

AAのプログラムのもとである原理は、生活様式がどれほど違っていても、すむ国が違っていても、関わりなく同じように効果があることを示している。AAのプログラムを要約した12のステップは、ある国では「Los Doce Pasos」と、また別の国では「Les Douze Etapes」と、言葉は違って、アルコールクス・アノニマスの最初のメンバーたちが築いた回復へつながる道は全く同じように表されている。

AAの共同体はその機構も範囲もめざましい広がりを見せているが、その核心はいたって簡単であり、個人を主体にしたものである。今日も、世界のどこかで、一人のアルコールクが別のアルコールクのだれかに経験と力と希望を語る時、回復が始まっている。(アルコールクス・アノニマス19~20頁「第三版に寄せて」ワールドサービス社の許可のもとに再録)

AAの仲間から初めてメッセージを受けたときの感動は、私にとって新しい生き方の原点となっている。措置入院でこの先どう生きていったらいいのか全く分らないでいた私に仲間が伝えてくれたものはまさにハイヤーパワーの贈り物だった。後にも先にもこれ以上のものはない。過去の、現在の、そして未来の私の姿がそこにあったからだ。私はどういう訳か、みそ汁を常食することが出来ず、日本茶をいくら挑戦しても習慣にならない。だからといってではないだろうがこのアメリカ産のプログラムがとても受け入れやすかった。特に自分たちがそうしたかったら、そうできるという主体性がたまらなく好きだ。「人間は平等に造られている」という独立宣言の原理に基づいているものだろうが、自己中心主義者と私はよく誤解される。

私がAAのミーティング場を訪れたときは現在のようにサービス機構というものが整っていなかったと思う。第一回のGSM(ゼネラルサービスミーティング)が1999年だから、全体でメッセージのことをどうするとかの決まりごとはなく、主体性の持ったメンバーが各地に飛び回って開拓してきたとも聞いている。私がつながったグループもそのお陰だった。そして、メンバー層の移り変わりや社会のニュースの中で多くの経験を積み、念願のJSOの法人格も与えられ、評議会憲章もグループによって承認された。まさに個々のメンバーからなるグループの良心が今回の評議会において新たな出発点として集約されたものと信じている。このような時代に常任理事に就かせて頂いたことに感謝と誇りを持って、個々のメンバーのソプラエティの享受と、「今苦しんでいるアルコールク」にAAの回復のプログラムの福音を届けられるよう奉仕していきたいと心している。なにかさせて頂くことをお願いしたい。

それと、私の輝かしい(?)飲酒体験は矯正施設を抜きにしては語れない。つまり飲酒+犯罪=刑務所なのである。たまたま病院に数回入院したことはあるのだが、それはAAのメッセージを受けることになる最後の頃だ。それも社会と刑務所の間に設けられた高い塀の上をよるよる歩く危うい状態

で、たまたま病院の方へ転がり落ちたというようなものだ。道具さえよければ、私のようなものでも助かるということ、つまり、刑務所+AA=回復を、役割の中の一部としてさせて頂ければありがたい、ということもお願いしたい。そして、すでに矯正施設にメッセージを運んでいる仲間たち、これからメッセージを運ぼうとする仲間たちも評議会機構の同じテーブルに着き、喜びを分かち合えることになるよう希望したい。

川崎での評議会前日、仲間誘われ初めて蒲田のミーティング場に出させてもらった。日本のAAはここから始まったのだという感激と感謝の思いに浸っていた私は、仲間の話はほとんど耳に入っていなかった。(ごめんなさい)また行ける日があると思うので、その時には埋め合わせをさせてもらいたいと思っている。

第9回AA日本全国評議会の経験の分ち合い

常任理事会財務担当 荒井

今年も、年に1度のAA日本全国評議会(第9回)が、これまでの「ホテルB&G」から「川崎グランドホテル」に会場を移して開催されました。

参加する前は、「評議会ってなんだろう?」「評議会メンバーとはどういうメンバーなのか?」「時間をかけて何を話合えるのだろうか?」「各地域・地区・グループ、そして新しいメンバーにどうやって評議会を説明すればいいのだろうか?」と、疑問と不安を抱えていました。これまでは、地域評議員の役割で2回参加をさせていただきましたが、議事進行と議論を理解し消化していただくだけで正直に言って精一杯でした。しかし、今回は3回目の参加で役割も変わり別の不安はありましたが、少し客観的にメンバーの意見を聞き・感じ・伝えられたと思います。また、参加する前の疑問も、私なりの回答が得られたと思います。

そして開催中一番印象に残った事は、各地域・地区・グループでサービスに対する見方や印象、提供して欲しい内容は、それぞれみな違うという現実です。しかし、「より良いサービスを目指している」という方向性は同じなんだ!!という真実も感じました。それは、まるで正反対の意見でも「今苦しんでいる仲間へ手を差し伸べる」ことを目指している意見は、全体を一体性へと導いてくれると確信も得られました。これは、私だけではなく評議会を通して「自分にはできなかったことを、神がそうして下さる」という「霊的な体験」を会場にいた全員が同時にしたのだ、とも言えるでしょう。具体的な内容は顔と顔を合わせ、言葉でお伝えさせていただきたいと思います。何処かで会う機会に恵まれましたら、私も声を掛けますのでぜひ一声掛けてください。

最後に、評議会のクライマックスの、全員でチェーンハンドをして「平安の祈り」を唱えている時の一人一人の顔は、3日間の疲れも感じさせないほど生き活きと輝いて素敵なお顔でした。それから1週間後の関東地域集会で、評議会メンバー数名と再開し、開催中の笑い話や感想を分ち合っている時に、胸からこみ上げてくる熱い何か?と喜びにあふれた涙に私は包まれました。…過去はアルコールがのどを通過していく、あの焼けるような感覚にシビれていましたが、今はサービスの恩恵とメンバーの一体性が暖かく私を包んでくれます。今は孤独じゃないよ…と、本当にお酒を止めて良かった!!と感じる瞬間です。あなたも熱い何か?を感じませんか??一緒にやっていきましょう!!

(4)

「素晴らしい！」の声が渦巻くトロントへ。

AA 誕生 70 年を祝いましょう！

トロントという言葉はヒューロン族インディアン語で「ミーティングの場所」を意味し、数世紀にわたって、この国の最初の部族と後にやってきたフランス人貿易業者によって使われていました。このカナダの歴史的都市はもうすぐ磁石のようになって、第 12 回インターナショナル・コンベンション(2005 年 6 月 30 日から 7 月 3 日まで開催)に参加する数千の AA メンバー、一緒にやってくるアラノン家族会メンバー、150 カ国というたくさんの国から集まってくる友人たちを引き寄せることになるでしょう。

5 年ごとに開催されるインターナショナル・コンベンション同様、今回も何とかして参加しようという彼らの思いは一体何なのでしょう？ いちばんの動機はたぶん、2005 年コンベンションのシンプルな力強いテーマ「私の責任 誰かがどこかで助けを求めたら、必ずそこに AA の(愛の)手があるようにしたい。それは私の責任だ」にもっとも適切に表現されているでしょう。またコンベンションの参加は、私たち一人ひとりが抱えている感謝の気持ちに裏打ちされた AA の一体性を確認するひと時にもなります。その感謝とは、しばしばたくさんの言語によって、しかし常に心の言葉によって語られるアルコールリズムからの回復の継続に対するものです。

全体で数千人にのぼる地元の実行委員会ボランティアの一団が、トロントの至るところに配置され、訪問者を歓迎し町を案内してくれるでしょう。空港、コンベンションのホテル、ミーティングの主会場、そしてその中には広大なメトロ・トロント・コンベンション・センターと多目的娯楽施設スカイ・ドームも含まれています。

自然に保護された湖港トロントは、カナダのオンタリオ州南部の広い先端から突き出した岬に位置しています。東側はバファロー湖岸都市、ニューヨーク、ナイアガラ瀑布(トロントの街中から車で行けばほんの 90 分)と肩を接し、一方西側はデトロイト、ミシガン、そしてヒューロン湖を招き入れるようなかたちで位置しています。北米では 5 番目の大都市(メキシコ・シティ、ロスアンゼルス、ニューヨーク、シカゴに次ぐ)ですが、全体として清潔で緑豊か、しかも安全なところ。カナダ人 9 人中 1 人がここに住み、クロム、ガラス、小さな町と、村落の風情のある近隣が感じ良く交じり合った都市です。バス、市街電車、地下鉄が整備されており、素晴らしい輸送システムを誇っています。

コンベンションのミーティング、ワークショップ、その他のイベントの以外の時間に、訪問者は滞在中、溢れるばかりのたくさんの遊ぶ場所から好きなところを選択することができます。いくつか挙げてみましょう。

湖岸 町の中心部からほんのわずかでいける湖岸は、夏はもっとも観光客の多い場所になります。広い範囲の美術、娯楽、ショッピング施設は、散歩道、公園、ボートのドックなどが点在するクイーン波止場にそって、すべて数ブロックの範囲内にあります。

ミュージアム(博物館) カナダ最大の文明と自然のミュージアムであるロイヤル・オンタリオ博物館は、ダイナザウルスからエジプトのミイラまで展示されています。ほかに

も魅力あふれる場所があります：全世界からの伝統的な織物を収集・展示してあるカナダ織物博物館、警察と犯罪事件記録の収集物が相互対話形式で展示されているトロント警察博物館・発見センター、ヨーク博物館(19 世紀に一時ヨークと称されたトロントの歴史をたどる資料)、その他があります。また 1~8 歳までの子供達のための博物館もあります。そこには、お店、庭、建築現場、動物病院、芸術工房、劇場、物語に出てくる隠れ家で構成された子供のためのオブジェがあります。

トロント動物園 全世界の 5,000 種もの動物と鳥がいて、子供も大人もここへ群がるようにしてやってきます。

案内付きのツアー トロント港ツアーで、港と島の周りの見事な風景を楽しむことができます。ほかのツアーでも、世界一高い建物 CN タワー、トロントの北の果てにある丘の頂上に位置しているカサ・ロマなど、興味深い場所を案内してくれるでしょう。そうそう、この大都市を一望できるパチカル・リアリティ(エンターテイメント施設。人口的に作られたロッククライミングなど) トロント・ヘリコプターツアーを忘れないでください。

夕食と娯楽 この多文化都市の多様性は、この地を世界中の、しかも本物の料理を味わえる最高の場所のひとつにしています。英語の次によく使われる言葉はイタリア語と広東語ですが、このイタリア料理と中国料理は絶対お勧めです。いくつかある高級レストランでは、カナダでとれる最高の食材を使用した折々のカナダ料理を定めています。ぜひ、鮭やほかのシーフード、鹿とカリブー、シオマネキ蟹の頭、コーン、そしてさまざまな農産物も試してみてください。どれも食欲をそそられる組み合わせになっています。劇場ですが、常時何かが上演されています。キング・ストリートのセコンド・シティ、ロイヤル・アレキサンドラ、ウエルズ・プリンセスなどの劇場です。6 月のジャズから 7 月の実験劇場、フォーク・アート、シェイクスピア、近隣の村祭りにいたるまで、娯楽も多岐にわたります。

もし過去というものが前奏曲ならば、2005 年のインターナショナル・コンベンションは、これまででもっとも輝かしいものとなるでしょう。1950 年に始まったインターナショナル・コンベンションは、私達の集まりが行うアルコールへのメッセージ活動の成長と範囲と献身をはかる試金石となっています。1935 年の AA の創始を記念するために 5 年ごとに開かれています。今ではこの種の集まりで最大級のものの一つとなり、伝統的にアメリカとカナダを開催地として開かれています。これまで、1950 年はクリーブランド、1955 年はセントルイス、1960 年はロングビーチ、1965 年はトロント、1970 年はマイアミ、1975 年はデンバー、1980 年はニューオーリンズ、1985 年はモントリオール、1990 年はシアトル、1995 年はサンディエゴ、そして 2000 年はミネアポリスでした。

2005 年のコンベンションは、まだ先のことに思えるかもしれませんが、しかし時間は飛ぶように過ぎていきますから、コンベンションのことを今から考えても早すぎることはないでしょう。概略的な情報や事前登録の情報については、BO X 4-5-9 か、AA のウェブサイト www.aa.org のメンバーサービスのページをご参照ください。

AA 日本ニュースレター No. 104

編集・発行：AA 日本ゼネラルサービスオフィス(JSO) 〒171-0014 東京都豊島区池袋 4-17-10 土屋ビル 4F

TEL:03-3590-5377 FAX:03-3590-5419 ホームページ：<http://www.cam.hi-ho.ne.jp/aa-jso/>